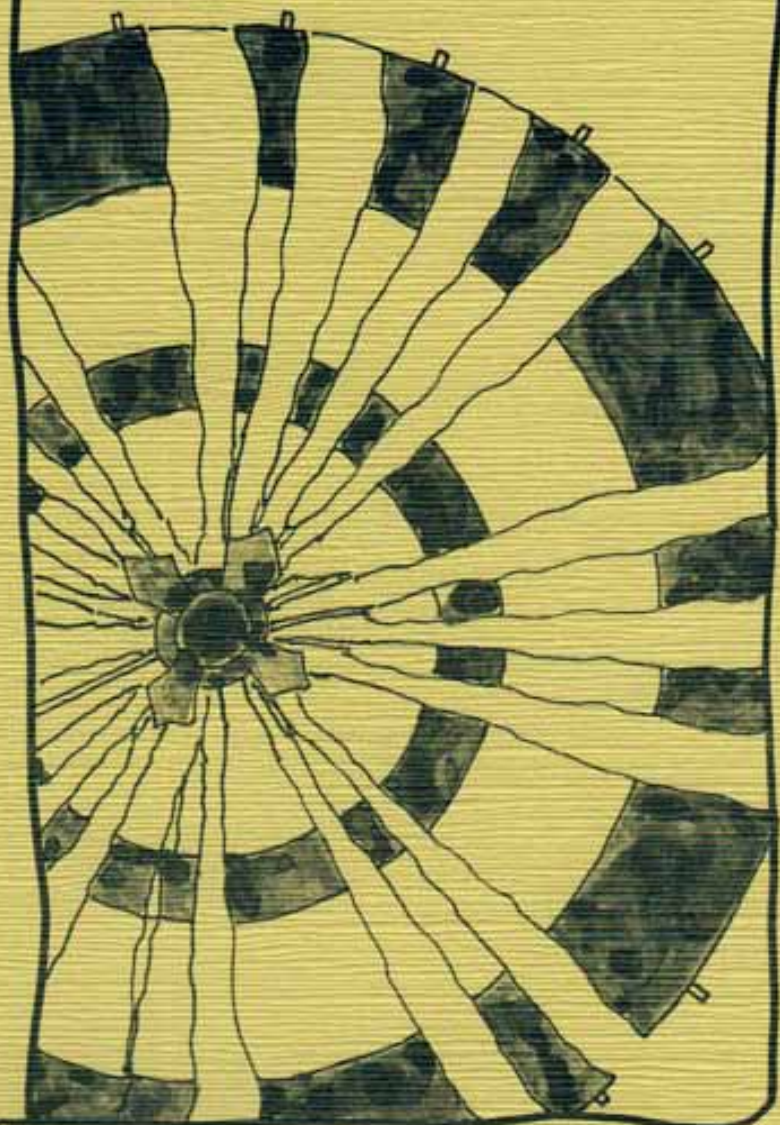


やぶれ傘



一二五号

二〇二二年四月

ストローにとどまつてゐる石鹼玉	根橋宏次
ふらここにひとり芝生にふたりの子	大島英昭
隣国にロシアありけり春の海	きくちきみえ
鳥雲に街は上着を脱ぐ陽気	丑久保 勲
おぼろ夜のおおぶりのマグカップ	青谷小枝
種袋立て植木鉢置かれけり	廣瀬雅男
寒造りラベルに越後杜氏の名	瀬島酒望
碁会所はどうやら休みスイトピー	安藤久美子
辛夷散る昨日の雀今日も来て	藤井美晴
春彼岸ほのかに甘き白団子	白石正躬
春寒の棺に古き手紙入れ	秋山信行
花冷のビル奥にある占い屋	小山よる
友と会ふミモザの活けてある茶房	有賀昌子
庭石に凹みありけり春の芝	天野美登里
馬小屋に馬の首見え黄水仙	渡邊孝彦

抄 集 句 傘 紀 大 崎 選

他所の猫しきりと通る黄水仙	奥田温子
午後の日が冬の椿に移りをり	木村瑞枝
間伐の林を抜けて犬ふぐり	倉澤節子
本伏せてなんにもしない春の夕	小泉里香
山菜萸咲く家の表札変はりをり	小巻若菜
足下のサクと音して春浅し	高橋宜治
米国で「内定した」と春の虹	萩原久代
花菜漬専業主夫も十年目	松本善一
春日傘まはし日向を選びゆく	道林はる子
冴え返る空に飛行機雲二本	箕田健生
物の芽に紙飛行機の着地せり	武藤節子
オキザリスほつたらかしの鉢に咲く	森 美佐子
ぱりぱりと氷を踏んで兎が通る	湯本正友
下萌えの道緩やかに水辺まで	浅嶋 肇
梅の花五つを数へ家を発つ	泉 一九

花冷

小山よる

春の雪買った覚えのなきブーツ
 百円の帽子で凌ぐ春北風
 餌を待つ鳩と一緒に残り鴨
 春の川覗いて電話してゐたり
 春の夕風久々にスーッ着て
 手提げからミモザの鉢が見えてゐる
 春時雨こつちのカフェは空いてゐて
 春灯ソファーに穴が開いてゐる
 あたたかや犬ははしやいで怒られて
 花冷のビル奥にある占い屋

ミモザ

有賀昌子

節分の鬼の腰には歩数計
 返り花昼うす暗き尼の寺
 小さき背を小突き過ぎゆく風二月
 友と会ふミモザの活けてある茶房
 柔らかかに丹波黒豆煮る二月
 まっすぐな大学通り木の芽風
 アップルパイぱりつと焼けて寒明ける
 部員集合春寒の艇庫前
 陽炎は漂流船の欠けらかも
 俎板にとんとんとんと水菜切り

春の芝

天野美登里

梅一輪ドクターへりの戻り来る
 昼食の Pasta に刻む露の臺
 利休忌の烏が屋根に飛び来たる
 川縁に野良猫の道根白草
 鶏の声を真昼に枝垂梅
 恋猫の声カーテンを付け替へる
 日の暮れの浜大根の花に風
 井戸水を汲む春昼の滑車の音
 庭石に凹みありけり春の芝
 丸椅子の並ぶ出店の花見酒

酸葉

渡邊孝彦

梅探る認知機能の検査後
 祠の扉やや開いてゐる浅き春
 薄紅梅簡素な家の前庭に
 垣手入されて舗道へ春の土
 公園のテントが歪む春疾風
 馬小屋に馬の首見え黄水仙
 堰落ちし泡が膨らむ春の川
 幹折れの柵が芽吹き鳥のこゑ
 雨上がり酸葉を揺らし車過ぐ
 ビストロのテラスの隅に風車

江口恵子
売家の張り紙破るからつ風
小走りに朝のごみ出し日脚伸ぶ
喉元をすうつと通る寒の水
シルバーのスマホ教室春の昼
春時雨畝三列の貸農園
三月や道路工事の立看板
春祭り包丁研ぎのポランテア

奥田温子

鳴きもせず名の知れぬ鳥枯庭に
埋み火のぼつぽつ爆ぜてやみにけり
他所の猫しきりと通る黄水仙
透きとほるほどの朝月柳の芽
ごみに来る鳥追ひかけ街余寒
雛あられ食べてしまつて買ひ直す
鷹化して鳩となるのに戦とは

神山市実

カーテンの厚手も引きし冬の夜
合格を願ひ社へ春を待つ
庭の隅冬芽の少し膨らみて
店の外雪うつすらと積もりをり
公園の子等の声聴くクロッカス
賽銭の乾いた音や梅白し
出来たての鯛焼き尾から春浅し

木村瑞枝

午後の日が冬の椿に移りをり
春の風邪夫が用意の店屋物
鉢植糸のクロッカス咲く午後は雨
寒明けの紅茶にミルクたつぷりと
しら梅の一枝に日がかかりをり
暮るるころアスパラガスを少し茹で
げんげ田に昼の明るさ戻りきて

紙を漉く土間にやかんが湯気を立て
 倉澤節子
 古書店の『小學ヌリエ』春浅し
 地震の夜の厨に島の新若布
 貯水湖の水八分目春の鴨
 春昼の低空飛行と爆音と
 間伐の林を抜けて犬ふぐり
 六歳の面差し残し卒業す

黒澤次郎

蠟梅のひときは香る山家道
 寒月を赤く染めたる朝日光
 人声に薄氷動く心字池
 節分や野川の水の遡る
 人気無き路傍のベンチ蠅生まる
 いつもゆく道に雀の帷子が
 金縷梅のひとひらさへもこぼさざる

小池一司

糸遊の先に居る子等坂の上
 日を浴びて屋根に列雀の子
 次々と庭の日影の梅開く
 気がつけばハクモクレンのあちこちに
 桜餅売る境内の糸桜
 頭上には声の綺麗な春の鳥
 春うらら繋がれて猫二匹ゐる

小泉里香

大寒の磨きあげたるステンレス
 歩幅には合はぬ飛び石冬の梅
 落椿音なく消ゆる池のあわ
 朧夜の電車音の遠くより
 春の昼凹んだボール落ちてゐる
 本伏せてなんにもしない春の夕
 囀りや子に起こさる日曜日

カレー店へ女三人小正月
春近しホットケーキを焼いてゐる
春立ちぬ風呂沸くまでのスクワット
雲厚く鴉が低く横切る春
山茱萸咲く家の表札変はりをり
午後ひとり春の花展をひとめぐり
木瓜生ける使ひ古しの花鋏

小巻若葉

坂本和穂

鳩の声に聞きほれ立ちどまる
切干しの次女の味付け母の味
雪晴の芝生うつすら緑おび
裸木の上の星々見てゐたる
ペダル踏み春風を背に坂下る
川沿ひの病院まで探梅行
鷹鳩と化して上司は定年に

佐藤稲子

神主は小袋入りの豆をまく
園児らが禰宜の姿で豆をまく
力石は五拾貫とや冴え返る
手の届く柵のなかなる露の臺
落ちてゐる団栗が芽を出してゐる
手作りの土雛飾る柵の上
春椎茸櫓木に付いたまま売られ

眞田忠雄

桶の薄氷溶け始めたる小屋かな
孟宗林にチエンソ一の音虎落笛
寒に入りにて蛋民家族おか陸に住む
寒椿の次々と落つ垣の外
都大路を寂聴のゆく夜半の冬
四つ手網に光る白魚吉井川
雨戸開ければうぐひすのこゑきこえ

◇5月・6月の句会案内

月	日	時	句会名	会場	連絡先
5月	3日(火)	AM9:00	こなから会	あいパル	WEP編集室
	3日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン3	大島英昭
	4日(水)	PM6:00	ぎんなん会	浦和コミセン3	丑久保 勲
	6日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	6日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン1	秋山信行
	21日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	28日(土)	AM10:00	楽天会	あいパル	廣瀬雅男
	28日(土)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室
6月	3日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	3日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン3	秋山信行
	6日(月)	PM6:00	ぎんなん会	浦和コミセン2	丑久保 勲
	7日(火)	AM9:00	こなから会	あいパル	WEP編集室
	7日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン3	大島英昭
	18日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	19日(日)	AM10:00	吟行会(下記注)	さいたま市・見沼	丑久保 勲
	25日(土)	AM10:00	楽天会	あいパル	廣瀬雅男
	25日(土)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室

〔注〕ぎんなん会は奇数月は第1水曜、偶数月は第1月曜です。

6月19日(日)の吟行。

集合 10時、JR京浜東北線・北浦和駅。

吟行地 さいたま市・見沼(市立病院の東側一帯)。

句会場 下落合コミセン第4集会室

(このコミセンの利用は初めてですが、京浜東北線と野駅西口から徒歩3分です)

◎連絡先 秋山信行 ☎048-874-0555 藤井美晴 ☎0422-55-2733
 大島英昭 ☎048-592-5041 WEP編集室 ☎03-5368-1870
 廣瀬雅男 ☎048-443-7522 丑久保 勲 ☎048-853-3856

絵馬の鳴る神田明神受験どきぬ
 約束をして暦に記し春め
 鷹化して鳩となりけり見は
 梅にほふる気な旅のまは
 諦めるとなな旅のまは
 見沼川水面に浮かぶかいさ
 大凶を枯木に結び宮詣

高橋均

梅の花兜太の文字の下手さかな
 梅日和や普段使たての猫の腹
 三月や大縫ひ針床に落としか
 立春の雪振るつて入る理髪店
 寒の董交番前に「老犬貫ひけり
 日脚伸び小さき「老犬貫ひけり

柴崎和男